

第3回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2021年8月19日（木） 午前9時00分から午前10時00分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、小嶋光明、小田啓二、川島恒憲、
浜田信行、福士政広、笠井 篤、辻本 忠、橋本 周、秋吉優史
（欠席：中村美和、阪間 稔、高橋賢臣 公式記録からは削除）
4. 紹介資料
資料1
非破壊検査業界との情報交換等の提案～今後の検討と議論展開に向けて～
5. 議事
 - （1）本WG事前説明会と第2回検討WG 議事要旨（案）について審議し、承認された。
 - （2）非破壊検査業界との情報交換等の提案（意見発表）
資料1に基づき、小田委員より非破壊検査業務及び検討WGでの検討事項に関する意見発表があった。
 - 非破壊検査業務の実態把握に協力できるほか、非破壊検査業務に従事する担当者に情報提供をお願いできる。
 - 安衛法・電離則の下での事故に関する措置、事故に対する厚労省の措置、IAEAへの対応について、よく精査する必要がある。
 - 要検討課題として、1)安全文化の観点から、事故防止のための事業者の安全管理体制についての調査、2)過去の事故後対応との比較、及び3)安衛法・電離則を担当する厚労省担当との前向きな連携、があげられる。
 - 委員から以下の意見があった。
 - ✓ 今次X線被ばく事故はRI等規制法には無関係で、安衛法・電離則の法体系の下で扱われる。現在の法体系の整理とその課題を整理する必要がある。
 - （3）企業の放射線管理の視点での検討（意見発表）
川島委員より商用原子力発電所における放射線管理の現場経験に基づく、PDCA活動や被ばくを伴う作業の前の心構えなどに関する知見の紹介があった。
 - 原子力発電所における定期検査業務では放射線業務では作業員が1日に数千人以上になるが、マニュアルの準備にとどまらず、被ばく事故発生リスク高い放射線作業について放射線管理員を現場に常駐させる取り組みを徹底し、事故発生リスクを低減する取り組みとしている。
 - 自社研究所でのX線回析作業における過剰被ばく事例では、根本原因として、リスクアセスメントの欠落や作業内容のレビュー未実施等、組織的な対応の不備が問題視された。今回の事象も同様な視点でのレビューを行う必要がある。

(4) その他

- WGの活動の方向性について、業界の実情を踏まえた調査（非破壊検査分野におけるX線装置の実情、業務に精通する担当者からの現場をよく知る方の視点でのハード面、ソフト面での懸念や課題の紹介）、企業における放射線安全管理のPDCAサイクルの実施事例から他の業種における安全管理構築に役だつ事例はあるか検討を進めるほか、他のテーマについても、事務局内でさらに検討を進める。
- 第4回WGは9月1日（水）9-10時の開催を予定している。笠井委員及び辻本委員より関連情報の提供をいただくことになった。
- 第8回WG以降（10月～11月を予定）に、全体を通じた長めの議論の時間を設けることとなった。

以上